

大阪みなと中央病院とは

- ・独立行政法人地域医療機能推進機構大阪みなと中央病院は、平成 26 年 4 月に旧厚生年金病院、旧社会保険病院等と共に、大阪船員保険病院が独立行政法人化されたもので、港区唯一の公的医療機関ですが、国からの運営交付金はありません。

移転後の大阪みなと中央病院の機能について

- ・築港地区から令和元年 9 月に駅直結の弁天町地区に移転し、移転後も 275 床（高度急性期 8 床、急性期 222 床、回復期 45 床）で運用します。現在、休棟中の 45 床（急性期）も稼働状況をみながら運用を開始します。
- ・この移転は、大阪市との共同事業である「弁天町駅前土地地区画整理記念事業」の一環であり、港区の地域医療と災害時医療の拠点機能形成を目的としたものです。

○ 地域医療の拠点について

①救急体制を順次拡大し、今後も強化します。

（救急搬送件数 4～8 月平均 97.2 件→9 月 108 件→10 月 126 件）

②近隣医療機関と連携を強化し、今後も地域で求められる役割を果たしていきます。

（紹介件数 4～8 月平均 451.6 件→9 月 507 件→10 月 655 件）

③11 月に訪問看護ステーションを開設する等、地域包括ケアの要として、地域の在宅医療・介護に貢献します。

○ 災害医療の拠点について

①南海トラフ巨大地震を想定し、非常用発電機、備蓄庫及び救助活動・物資供給が可能な屋上ヘリコプター緊急離着陸場を備えています。

②津波・水害からの一時避難場所とするため受付を 3 階にしました。

③災害時においても診療が継続できるよう、外来、手術室、病棟等の主要施設を中～高層階に配置しています。

- ・以上の機能については、港区も移転の計画段階から認識しており、公的病院としては、区内唯一の複数診療科病院、救急指定病院、一般病床を持つ病院として、不可欠な存在であり今後も地域の期待に応える所存です。